

令和4年度国立夜須高原青少年自然の家教育事業

体験活動普及啓発事業 ②自然体験活動「親子自然体験キャンプ」

はじめてのファミリーキャンプ

【実施報告】

- 1 趣 旨 これからキャンプを始めたい、またはキャンプ初級者の家族を対象として、安全且つ環境に配慮したキャンプスキルについて体験的に考え、学ぶことを通して、自然体験やキャンプ生活におけるマナー向上を図ることを目的に実施する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 期 間 令和4年10月22日(土)～23日(日)
- 4 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 5 参加者 20名(5家族)
- 6 講 師 福岡県キャンプ協会
吉武 忠雄 氏 吉武 洋子 氏 江副 吉子 氏
佐々木 英雄 氏 花田 幸雄 氏
- 7 活動様子 別紙参照
- 8 感 想
 - ①プログラムに関すること
 - ・いろいろな講義でとても勉強になった、楽しい雰囲気だった。
 - ・テントの撤収のポイントなど勉強になった。
 - ・テントの張り方など、聞きたいことが聞けるのでよかった。
 - ②事業全体に関すること
 - ・楽しく家族の時間も交流の時間も程よく過ごせた。
 - ・安心感のあるキャンプであった。
 - ・テントのたたみ方や火おこしの仕方など、基本的なことがゆえに人には聞けないようなことを聞いたので勉強になった。
 - ・子供が興味を持ったことを実際に体験させてくれたので良かった。
 - ・キャンプを初めてみたいと思っていたが、踏み出せずにいたのですごく良いきっかけとなった。

9 成 果

本事業は、タイトルにもある「はじめてのキャンプ」の家族を対象とした事業であった。その中で、参加者の感想にもあるように「基本的なことがゆえに聞けないことを聞いた」や「踏み出すきっかけとなった」とあることから、参加者にとって大変満足できる事業であった。

また、使用する道具や食材などは参加者が自由に持ち込み、調理や使用方法などのアドバイスは講師や職員が行うというスタイルは、他施設でもなかなか実施していない事業であり、参加者のキャンプに一步踏み出すというニーズに沿った事業となった。

さらに、施設側としても「自然と人に優しいキャンプ」を目的としており、キャンプを行う際のマナーや環境に配慮する行動などをレクチャーすることで、使う側のマナーやスキルが向上することは、貸し出す側としてのメリットもあり、双方にとって有効なキャンプであった。

10 課 題

今回のようなキャンプをはじめたいが踏み出せない家族は、他にもたくさんいるのではないだろうか。実際に応募自体もすぐに定員に達しており、ニーズの多さを感じている。お子さんの体調不良により当日キャンセルされた家族も複数あったことは非常に残念である。

これらを踏まえ課題として考えられるのは、今回、アウトドア専門店や自然の家のLINE登録をしている家族を中心に募集を行った。しかしながら、もっと多くの家族に本事業を知ってもらえれば、参加希望家族は現状よりも多いように感じており、多くの家族の目に留まるような広報の方法が大きな課題と言えるだろう。

また、多くの参加家族に対応できるような施設面や体制を構築していくことも大きな課題である。

7-1. テント設営



7-2. 夕食づくり



7-3. 焚き火



7-4. テント撤収



7-5. 草スキー

